

## 2018年度ユニーク卒論

法 学部

担当教員名	高島 千代
論文執筆者名	利光 啓
論文の題 (テーマ)	日本人として戦った台湾原住民青年 －高砂義勇隊への志願決意とその要因
簡単な内容 (概要)	<p>本論文は、太平洋戦争中、日本軍により編成された台湾原住民部隊、「高砂義勇隊」(第一回の募集時では「高砂挺身隊)」の志願意識に注目する。</p> <p>「高砂義勇隊」への強い志願意識の背景には、これまで「皇民化政策」「伝統的価値観」「差別脱却」の三つの要素のあることが指摘されてきたが、本稿では、林えいだい編『証言 台湾高砂義勇隊』に収録されている証言をもとに、志願理由を改めて検証。「駐在所の警官の命令」もまた、志願過程で大きな役割を果たしたと指摘している。そのうえで、改めて志願意識全体の構図をふまえ、なぜかれらが志願したのか、論じている。</p>
推薦の理由	<p>「高砂義勇隊」については、編成された台湾原住民の側に非常に強い志願意識が存在したこと、またそれが「皇民化政策」とともに、住民自身の「伝統的価値観」「差別脱却」への志向などに基づいていたことが、これまで指摘されてきた。これに対して本稿は、同じ「青年」としての視点から改めて証言を読み直し、駐在警官の原住民社会での役割にも注目して、志願に至る複雑な意識構造を整理し直している。</p> <p>「青年」としての視点に立ち、日本の特別攻撃隊(特攻)に注目する学生は多いが、植民地下にあった地域、例えば、朝鮮出身者の特攻や「高砂義勇隊」の青年に注目するケースは決して多くない。その点、本稿は貴重な成果であり、「高砂義勇隊」の「皇軍」意識を朝鮮半島出身の兵士と比較する言及もみられる。</p> <p>また台湾社会で差別される側にあった原住民の人々が、「高砂義勇隊」に志願し、日本という国家を選択していく過程を、「皇民化」「日本との同化」過程ととらえるだけでなく、かれらの社会が国家化していく一階梯だとし、その点に、志願意識の根を見出そうしている点も興味深い。植民地化の過程が近代国家化の過程をはらむがゆえに、解放後も植民地内部には、その痕跡や「傷跡」が残り続けるからである。駐在警官の命令や宣伝が、志願への重要な契機となったことは、植民地において、かれら警官が、こうした国家化へと住民を強制・誘導する役割を果たす存在だったことをよく示している。</p>